

2026年7月

地域おこし研究員 説明会 活動紹介資料

鷹栖町地域おこし研究員 廣瀬健大

自己紹介

廣瀬 健大（ひろせ けんた）

2025年3月 筑波大学 卒業

2025年4月～ 慶應義塾大学 政策・メディア研究科

2026年4月～ 鷹栖町地域おこし研究員

現在は休学し、JICA海外協力隊短期派遣隊員として
アフリカ・ガーナにて体育教員および野球コーチ
として活動中（2026年6～11月）



研究内容

モディファイドスポーツを活用した地域スポーツの再生
—Baseball5を事例とした実践研究—

研究背景

現代のスポーツ活動における課題

- ▷ 高齢化に伴う医療費増大への対策としてスポーツへの関心が高まっている
- ▶ 実施は個人種目に偏っており、チームスポーツの実施率は横ばい・減少傾向にある
- ▶ 少子化や都市部への人口集中の影響を受け、地方部でのチームスポーツの担い手が減少

本来スポーツが有している「仲間と集まり、楽しみながら体を動かす」という
「あそび」としての側面が失われている

研究背景

モディファイドスポーツ（Mスポ）への着目

- ▶ 既存スポーツの特性を継承しながらも、実施に必要な人数や用具、施設などの参加障壁を低減したスポーツ

Baeball5（野球）



テニピン（テニス）



4v4サッカー（サッカー）

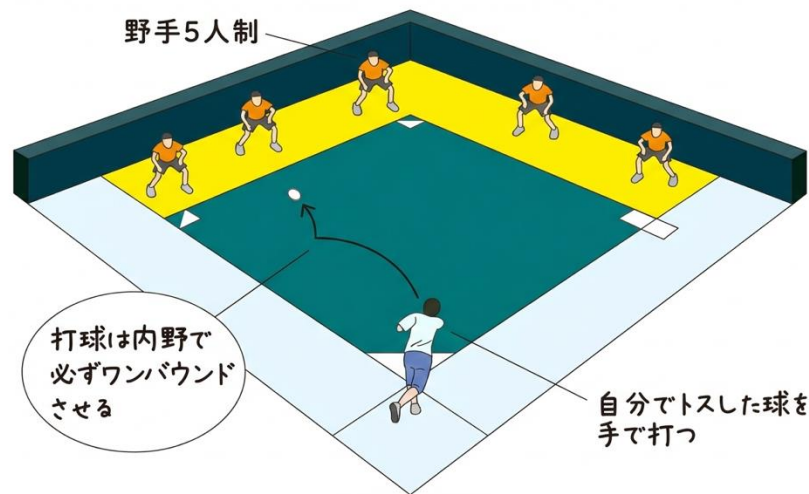


- ▶ 運営負担や環境的制約が小さく、参加者同士が主体的に活動を継続しやすい

研究背景

Baseball5 (B5) を事例とした実践

- ▶ 野球は人数・施設・用具への依存度が高いスポーツであり、B5はその制約を緩和したMスポである
- ▶ 野球 ↔ B5のギャップはMスポの特徴が最大限に発揮されると考えられる



研究目的・対象

研究目的

Mスポの持つ特性が地域のスポーツ課題を解決し、新たなスポーツ文化として根付くのか、B5を事例として検証すること

研究対象

鷹栖町・たかすスポーツクラブ

- ▶ クラブ主催の教室に参加する小学生
- ▶ 役場野球部などの地域の野球チーム

実践活動

鷹栖町 2026年4～6月

▶ たかすスポーツクラブ・鷹栖町役場の職員を対象とした体験会



JICA活動期間の調査

- ▶ 野球活動が行われている赴任先の学校では「何をきっかけに野球が始まったのか」「どのようにして活動を継続しているのか」といったことを調査する
- ▷ B5が活動開始のきっかけになっている可能性

